

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

・学校の概要(平成15年4月現在)

長崎市立深堀小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	2	2	2	1	14	21
児童数	78	73	88	67	78	69	3	456	

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

確かな学力を身に付けた子どもの育成

2. 内容と方法

(1)実施学年・教科

全学年算数(研究の成果が比較的分かりやすく,子どもたち自身も自覚でき,学習意欲へつながると考えたため。)

(2)年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ

「確かな学力を身に付けた子どもの育成」

～算数科を中心とした指導法や指導形態と学習環境の充実～

研究の見通し(仮説)

個に応じた指導のための指導方法や指導形態を工夫したり,学習環境を充実させることによって,子ども一人一人が確かな学力を身に付けることができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 「確かな学力」や算数科における「基礎・基本」についての理論研究
- ・ 子どもたちの学力実態調査
- ・ 研究仮説を検証し,研究主題に迫るための研究授業の実施
- ・ 学力向上や,学ぶ意欲・学ぶ習慣を喚起するための計画・実施

平成
15
年
度

テーマ

「確かな学力を身に付けた子どもの育成」

～算数科を中心とした個に応じた指導の在り方～

研究の見通し（仮説）

考える場を十分に設定した問題解決学習を展開し教材や指導形態，評価など個に応じた指導を工夫すれば，学ぶ意欲や考える力・解決する力が高まり，確かな学力を身に付けた子どもを育成することができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 学力テストや学習アンケートなどを通しての児童の実態調査
 - ・ 「問題解決学習の重視」「教材の工夫」「指導形態の工夫」「評価方法の工夫」を仮説にした研究授業の実施
 - ・ 「家庭学習の充実」を含めた，学習環境の整備
 - ・ フロンティアスクールとしての研究普及
- * 昨年度の研究の課題から，指導形態の工夫ばかりに目を奪われることなく，考える場を十分に設定した問題解決学習の学習過程の中で，個に応じた具体的な指導場面や評価方法を明らかにしたり，算数科指導の本質を見直したりする必要性を感じた。そこで，今年度は，子どもの実態を的確に把握し，その実態に応じて一人一人の子どもを大切にしたい指導の在り方を探っていきたいと考え，副主題や研究仮説を見直した。

平成
16
年
度

テーマ

「確かな学力を身に付けた子どもの育成」

～算数科を中心とした個に応じた指導の在り方～

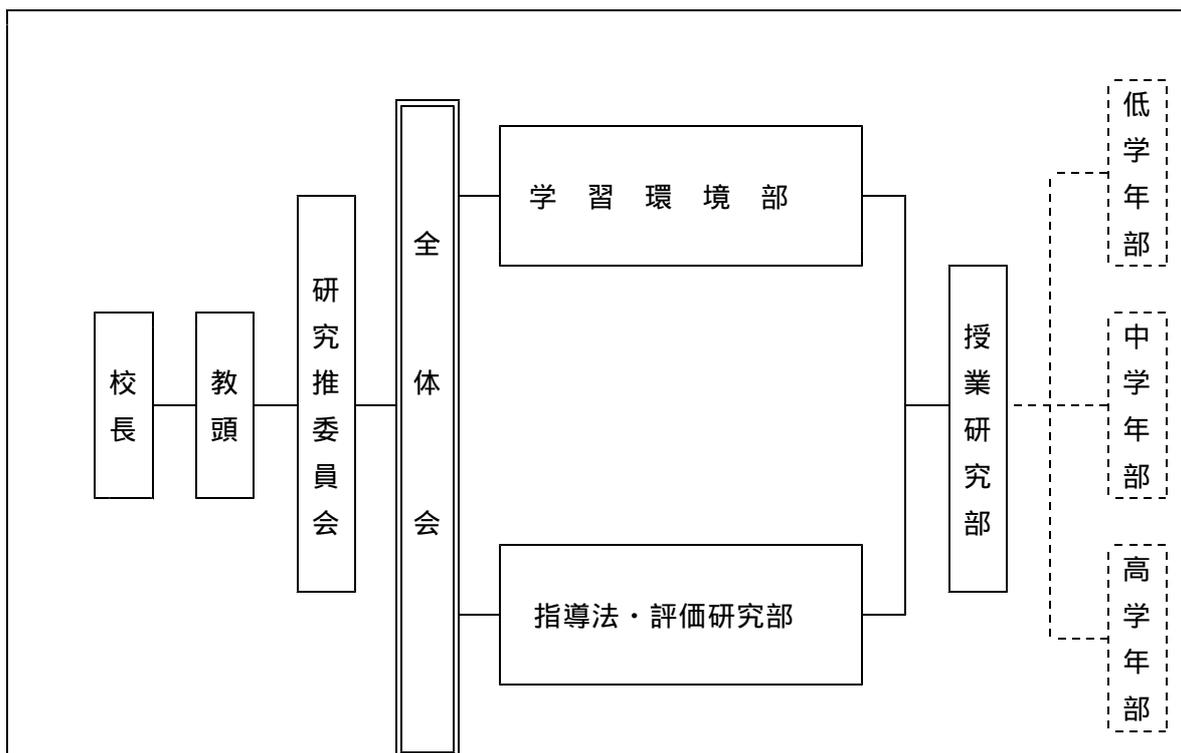
研究の見通し（仮説）

考える場を十分に設定した問題解決学習を展開し教材や指導形態，評価など個に応じた指導を工夫すれば，学ぶ意欲や考える力・解決する力が高まり，確かな学力を身に付けた子どもを育成することができるであろう。

研究内容・方法

- ・ 児童の実態調査
 - ・ 研究授業の実施
 - ・ 学習環境の整備
 - ・ フロンティアスクールとしての研究普及
- * 具体仮説や研究内容については，授業研究等を通して検討中である。

(3) 研究体制



研究推進委員会

- ・ 校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任，学習環境部部長，指導法・評価研究部部長で構成する。
- ・ 研究計画の作成・運営，研究の連絡調整，全体会の計画など研究全体の推進を図る。

学習環境部

- ・ 昨年度までの学習環境部の取組の見直し，教材の作成，充実した算数ルームの運営など，学力向上のための環境整備を行う。

指導法・評価研究部

- ・ 指導方法や指導形態などの理論研究，指導形態を工夫改善した年間カリキュラムの見直し，指導の改善をめざした評価活動の研究などを行う。

授業研究部

- ・ 低学年部，中学年部，高学年部で構成する。
- ・ 研究授業を通して，研究内容を実践する。

* 昨年度の研究組織を見直し，理論研究や企画を進める各部会（学習環境部・指導法評価研究部）と実践研究を行う授業研究部（各学年部会）を組織した。

・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 今年度は研究の2年目ということで、昨年度の研究の成果と課題をもとに研究の方向性を見直すことができた。とくに、今年度はまず、算数科学習指導の本質をきちんととらえることから始めるために、算数科学習指導に精通されている講師の先生を招へいし、研修会をもつことによって教師自身の指導技術の向上に努めた。
- ・ 昨年度に引き続き、学習環境を充実させることによって、児童の学ぶ意欲の向上へつながった。
- ・ 子どもたちに問題解決学習における学び方が少しずつ身に付いてきている。
- ・ 各学年の子どもたちの発達段階に応じた指導形態の工夫をしたり、評価活動の工夫をしたりすることによって学習に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ 深堀小・中学校の連携のもと、「学力向上推進委員会」を組織し、各家庭での基本的な生活力（家庭学習の習慣化を含む）の向上についての運動を進展させつつある。

2. 今後の課題

- ・ 授業を仕組むにあたり、一人一人の子どもが満足感や達成感を得ることが学ぶことの原点ということを再認識し、教師自身が算数の楽しさや不思議さを子どもたちと共感できる感性をもって、指導技術を高めていきたい。
- ・ 指導形態の工夫については、引き続き、子どもの実態に応じて柔軟に考えていく必要がある。
- ・ 教材開発の工夫に関しては、今後さらに個に応じた指導のためにも、全学年を通して系統的に考えられた教材の開発・作成が必要である。
- ・ 授業を確実に進めるための形成評価、児童の学びを確かにするための自己評価や相互評価など、評価の在り方の研究をさらに深める必要がある。
- ・ 学習環境については、さらに環境整備を充実させるとともに、家庭学習の推進などは、家庭・地域との協力体制の強化を図っていきたい。

・学力把握のための学校の取組について

- ・ 昨年度より、児童の算数の学力の実態を調査するために定期的な学力テストを実施している。（1学期、年1回、全学年）
- ・ 今年度より、家庭学習の取組状況や算数の授業の理解状況等を把握するための定期的な学習アンケートを実施している。（2学期から、2ヶ月に1回程度、全学年）

・フロンティアスクールとしての成果の普及

- ・平成15年12月3日(水)に,平成15年度の研究の成果について,研究発表会(中間)を開いた。
- ・今年度の研究の成果を自校のホームページに掲載する予定である。

次の項目ごとに,該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可))

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】